

人文学部の
今を伝える

Agora

人文ニュース<アゴラ>

44巻1号
山形大学人文学部
2012.4.5

"AGORA"とは、ギリシャ語で"広場"という意味です。

人文ニュース 第44巻1号 <http://www-h.yamagata-u.ac.jp/agora/index.htm>

Question

この絵は、東アジアのどの都市を描いたものでしょうか？現在の都市名で答えてください。
(答えは、8ページの関連記事「近世東アジア比較都城史研究会3年間の活動」のところにあります。)



「清明上河図」の城門部分（趙廣超『筆記《清明上河図》』所収）

今春、東京国立博物館の特別展に、張択端「清明上河図」が出品されました。北京故宮博物院が所蔵するこの絵は、これまで国外不出の名画でしたが、日中国交正常化40周年を記念して日本で初めて公開されました。清明節(旧暦3月)を迎えた北宋の都の風景と庶民の姿を、精密にかつ生き生きと描いています。よく知られた運河に架かる虹橋とともに、城内と城外をつなぐ城門も、この絵の重要なモチーフです。

地域に根ざした
学びの広場
さあ、人文学部への
扉を開こう。



研修先にて。右から2番目が三浦さん

人文学部では、TOEICの成績優秀者に
海外渡航支援を行っています。

この制度を利用して2月～3月にかけてイギリス・
ロンドンに滞在した三浦さんに、現地から感想を
送っていただきました。

ロンドンに来て1ヶ月弱。間違った英語を話すことへの
恐れより、周囲と解り合いたい気持ちが強く、歯痒さを感じることも楽しいです。

英語は勿論、各國の癖のある英語、考え方、日本の美点、欠点など学んだことが沢山あり、これらは自分の財産になると確信しています！

人間文化学科3年 三浦美帆

<今年度の予定>

◆前期公開講座

人間文化学科

「イメージの詩学——ヨーロッパを解く」

●日程 平成24年6月11日、14日、18日、21日、25日

お待たせしました。今年度の講座では久しぶりに「絵」を取り上げ、イメージと詩のせめぎ合いを通して、ヨーロッパ文化の多様性と奥深さを浮き彫りにしてみたいと思います。フェルメール、ポッティシェルリ、ホガース、マレーヴィチ、マン・レイなどを俎上に載せる予定です。有名な絵から珍しい図像まで、絵解き・謎解きを存分にお楽しみください。

◆後期公開講座

法経政策学科

「私たちの暮らしと経済」

●日程 平成24年9・10月を予定

日々の暮らしの中で私たちが直面するさまざまな問題は、日本や世界の経済の動きと密接に関連しています。この講座では、私たちが暮らしの中で直面する具体的な経済に関わる問題を素材に、それがどのように日本や世界の経済の動きと結びついているのかを解説し、問題が生じる理由や决策についてどのように考えていくかを学びます。

特集 学部長インタビュー ~新任のごあいさつ~

人文学部長 法経政策学科 教授 北川忠明



—学部長の就任にあたっての抱負についてお聞かせ下さい。

大学・学部の基本的使命は人材育成にありますので、人文学部のこれまでの取り組みをさらに発展させて、人間力・市民性と職業意識を備えた人材を育成したいと思います。

2008年9月のリーマン・ショック以降の世界的不況、昨年2011年3月11日の東日本大震災もあり、日本社会の行方は不透明になっています。市場経済のグローバリゼーションはますます進むでしょうし、国際環境も大きく変わるでしょう。地方もそれを免れることはできません。少子・高齢化と人口減少も進みます。大きな転換期の渦中にあると言ってよいでしょう。学生の皆さんには、時代の転換を見据えて、様々な課題に立ち向かっていける基礎的能力を身につけ、人間性を磨いてほしいと思います。

このような事情も踏まえて、人文学部と人間文化学科・法経政策学科では、「学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」、「教育課程の編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）」を策定しました（「入学者受け入れの方針」も策定しています）。これらの基本方針に基づいた人材育成に、学部全体で取り組みたいと思います。

—山形大学人文学部の特色についてお聞かせ下さい。

人文学部は、東北地方有数の人文科学・社会科学の複合学部です。多様な専門研究が行われ、それに基づいて学生教育が行われています。人間文化学科では、共生人間学と文化環境学の2コースがあり、法経政策学科では法律、経済・経営、公共政策の3



コースがあります。人文・社会科学の多様な分野を学べる学部ですが、先に述べたように、学部・学科・コースごとのディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーを明確にした教育が行われています。「異文化間コミュニケーション」や「地域づくり特別演習」のような体験型学習にも力を入れています。CALL演習室を設けて、英語を中心に外国語コミュニケーション能力を高める授業も多数ありますし、海外の交流協定締結大学との交換留学も積極的に支援しています。また、「キャリア・ガイダンス」や「インナーシップ」、「公務員対策セミナー」のように卒業後の職業選択にかかる授業等もあります。

研究面では、ナスカ地上絵の研究のような世界的研究もありますし、東北地方や山形

県等の地域に密着したすぐれた研究も行われています。教員それぞれの専門分野において質の高い研究が行われていて、これは科学研究費補助金の採択件数・採択率にも反映されていますし、学会で活躍している教員も多いです。著書出版等も活発です。研究の質・水準の高さも、人文学部が誇るところです。

—先生の専門分野についてお聞かせ下さい。

専門は政治学の中の政治理論・政治思想史です。主に現代フランスの政治理論・政治思想、なかでもフランス共和主義思想を政治思想史的に研究してきましたが、最近は政治理論的テーマの方に比重をかけています。ハーバード大学の政治哲学教授マイケル・サンデルの「ハーバード白熱教室」が評判になりましたが、功利主義・リベラリズム・共和主義のそれぞれの考え方をつきあわせながら、現代世界が抱えている様々な問題とその解決をどのように考えていくかということを、テーマにしています。また、もっと地域に密着した研究として、コミュニティ再生等の研究も手がけています。

—先生はこれまで地域連携活動を活発に行っていましたが、今度どのような展開をお考えですか？

人文学部では、人文科学・社会科学の領域での専門研究を活かして、各教員が特色ある社会連携活動を行い、地域活性化に貢献してきました。

2年に1度山形市で開催される国際ドキュメンタリー映画祭への協力や、山形ドキュメンタリー・フィルム・ライブラリーの資料集作成への協力、また自治体等との連携協力協定に基づいたまちづくり・地域づくり活動への参画等があります。山形県庁や県内市町村自治体の審議会や委員会には多数の教員が委員として参加しています。

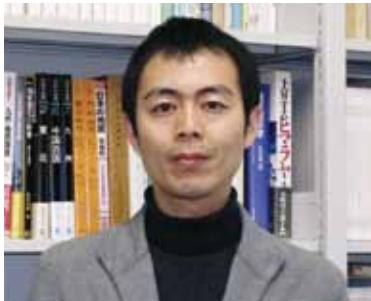
次世代育成のために、高大連携にも力を入れ、高校からの要請に応じて出張講義等も活発に行っています。

教員だけでなく、人文学部生・社会文化システム研究科の大学院生も、模擬裁判や震災復興支援ボランティアに取り組んでいますし、国際ドキュメンタリー映画祭にもボランティアとして多数参加しています。授業による教育だけでなく、ボランティアや様々な社会貢献活動を通して、学生の皆さんのが市民性を身につけるよう支援することも重要なことです。

今後も、これらの活動をさらに積極的に推進し、地域の学術研究・人材育成等の拠点としての役割を果たしていくことが課題です。

新任教員紹介

新任教員紹介 新任教員紹介



人間文化学科 准教授
地理学
伊藤晶文

大学院時代までの32年間を仙台で過ごした後、鹿児島大学教育学部での7年半を経て、平成23年10月に着任しました。南国九州と比べて気候が随分と異なり、冬の寒さや雪の多さが身に堪える日もありますが、晴れた朝の澄み切った青空や美しい銀世界を見るたびに、東北に戻ってこられた喜びを噛みしめています。

私の専門は自然地理学（地形学）で、特に臨海部の沖積低地

や、丘陵地およびシラス台地の斜面がいつ、どのようにして作られてきたのかに関心を持って研究を進めてきました。地理学ではフィールドワークが重要な研究手法となりますので、担当する授業でも学生のフィールドワーク体験を取り入れています。平成23年度の授業では、小白川キャンパス内のイチョウとイロハカエデの黄・紅葉および落葉の観察や気温観測、約400年前に造られたとされる山形五堰の一つである笹堰の水質調査を行いました。人文系の大半の学生はいわゆる文系ですから、自然科学系のフィールドワークに一瞬ひるむのですが、取り組んでいくうちに自らデータを取り、まとめ、考えていく楽しさを味わってくれているようです。今後も、学生とともに外に出て、ともに楽しみながら教育研究活動に取り組んでいきたいと考えています。



人間文化学科 准教授
芸術文化論・表象文化論
石澤 靖典

昨秋、本学人文学部に着任しました人間文化学科の石澤靖典です。学部ではおもに芸術文化論と表象文化論関係の授業を担当しています。専門は西洋美術史で、学生時代から一貫してイタリア・ルネサンス美術を研究してきました。

私が人文学部の講義でとくに論じたいと考えているテーマの一つは、芸術と都市（共同体）とのかかわりについてです。美術家が都市や共同体のために作品を制作するとき、そこにどのような意図やプログラムが組み込まれるのか、それを芸術家と受容者双方の視点から捉えてみたいと考えています。また、表象文化論関連の授

業では、「見えざるもの視覚化」というテーマを取り上げます。人が架空の、もしくは非物質的で目に見えない対象 一たとえば〈あの世〉や心の〈情念〉など一を「目に見えるように」イメージ化するとき、時代特有の意識や宗教、イデオロギーなどがどのように介入してくるのか、そうした視覚表象が成立するまでのプロセスを多様な情報メディアから分析することが目標です。

着任してまだ半年ほどですが、現時点での山形大学についての感想としましては、多くの学生に真摯な学習意欲がみられるという点にまずは大いに好ましい印象を受けました。一方、飲み会などに参加すると今どきの若者らしからぬ見事な飲みっぷりを披露する学生の多いことに第二の好印象をいただきました（これは私の担当する専修に特有の現象かもしれません）。今後は大学のみならず山形という共同体の伝統や風土にもよりいっそう理解を深め、この町における「都市と芸術のかかわり」についても考察の幅を広げていきたいと思っています。



人間文化学科 講師
表象文化論
大久保 清朗

昨年10月から人文学部人間学科の専任講師として、フランス語および映像学（映画）の授業を担当することになりました。その他に山形国際ドキュメンタリー映画祭と共に開催する映画関連の催しにも携わっております。今年の2月にはすでに「ドキュメンタリーとフィクションのはざまで」を開催しました。

およそ映画ほど、教育や研究から遠いものはないかも知れません。プラトン『国家』に従えば、映画とは、畢竟「真似の仕事」であり、映画にたずさわるものは、作る側も見る側も、「人間の徳に似せた影像を描写するだけの人々であって、真実そのものにはけっして触れて

いない」ということになります。

だが今、「真実」を素朴に信じることができるでしょうか。ジャン・ルノワール『ゲームの規則』の台詞にあるように、誰もがそれぞれの言い分を持っています。黒澤明の『羅生門』の重要さは、真実のあやうさをついたところにあります。

「映画は発表されると間もなく、消えてしまうものなのです。(…)
この消えていくということは、映画の宿命なのだと考えられてきます。」これは私の研究している映画監督である成瀬巳喜男——ルノワールより若く、黒澤より年上です——が残した言葉です。映画は儚い。ですがこの儚い存在が人びとをとらえ続けています。

プラトンは「真似の仕事が、よく治められた国家のなかにそれが存在しなければならないという、何らかの論拠を提出することができるならば、われわれとしては、よろこんでそれの帰国を迎えるであろう」とも記しています。

映画という「儚さ」とともにある芸術にひとつの論拠を提出すること、それがこれからの課題となります。

学生ボランティア活動から

東日本大震災以降、多くの学生がボランティア活動を続けています。その中で2つのプロジェクトにスポットを当て、参加した学生の声を聞いてみました。

1. 「震災復興支援学生プロジェクト」

大学院社会文化システム研究科 2年 遠藤大地

3月11日に地震が起り、テレビをつけるとすさまじい津波の光景が目に入りました。瓦礫だらけの町や避難所で生活する人々を目にし、「何か被災された方々のためにできることはないか」と思っていたところに、法経政策学科北川忠明先生よりこのプロジェクトの話を頂きました。一年間という限られた期間の中、瓦礫撤去や炊き出し、避難所での物資の仕分けや仮設住宅への訪問など、多岐にわたり活動を展開しました。震災という初めての経験の中、すべてが手探りという状況でしたが、受け入れ先である東松島市や石巻市をはじめ、蔵王温泉の方々や複数

の企業、そして人文学部の先生方、と多くの人の協力があり、継続して効果的に活動を行うことができたと思います。本当にありがとうございました。被災された方々を元気づけようとボランティア活動を行いましたが、食べ物に困っているにもかかわらず、パンやおにぎりなどを分けてくれたりと自分たちが辛い中でも明るく、優しく接して頂いて、逆に元気をもらいました。被災地が少しでも早く復興できるよう、これからも自分にできることを考え、行動に移していきたいと思います。



震災復興250日

私はこれまで、震災復興の現場に約40回足を運び、日数にして250日、時間にして約450時間の時間を費やしました。

私が初めて被災地へ訪れたのは4月3日。現地へ降り立った瞬間、地獄のような惨状に思わず言葉を失った。迫りくるかのような瓦礫の山、犠牲者の発見を示す赤いバツ印、行方不明者を捜索する自衛隊員、鼻を突くような強烈な異臭…。被災地の惨状は想像をはるかに超し、この世のものとは思うことが出来なかった。

支援活動では、ヘドロさらい、床上浸水家屋の清掃・除菌、仮設住宅への慰問等を行った。被災地の方々の生活、場合によっては命までにも係る大変重要な活動であったため、生半可な気持ちは許されなかった。復興支援のために自分の時間を削り、必要経費



法経政策学科 平成24年3月卒業 庄司美穂

は多少の自腹を切ってでも、私はとにかく現場に行く事を最優先した。現場では、今日を必死に生き抜く多くの被災者と出会った。何度も現場に向かうにつれ、メディアでは知らされていない実態が次々と垣間見え、「生きた学びは現場にあり」ということも痛感した。

私は現場での経験や実際に目の当たりにした事実を元に卒業論文を執筆した。支援活動の中で辛いことは様々あったが、最大の難関は、被災地の残酷な現実と正面から向き合うことであった。頭の中は常に震災のことでのいっぱい、時には夢でうなされることもあった。大震災と向き合い、人間の存在の儚さ、現代社会の脆弱さ、故郷を失う不安や恐怖等、様々なことを考えさせられた。気づけば、自身の人生観までも大きく変化していた。

この1年間、自分の様々なものを犠牲にして、震災復興の現場に足を運んできたが、全く後悔はしていない。むしろ、それ以上に人生において貴重な経験をさせて頂いたように思う。まだ現地を訪れていない方は、一度足を運んで頂きたい。何か心に響くものがきっとあるのではないかだろうか。

2. 「東日本大震災復興のための文化遺産修復」

人間文化学科 平成24年3月卒業 豊田龍平

私は「山形文化遺産防災ネットワーク(以下、山形ネット)」の一員として、東日本大震災で被災した歴史資料の救済活動に取り組んでいます。今回の震災では、巨大津波が沿岸地域に甚大な被害をもたらしました。この津波は沿岸部の博物館や文化財収蔵施設をものみこみ、そこに保管されていた大量の歴史資料が海水や汚泥にまみれました。

山形ネットは、こうした水損資料の救済事業を被災地の関係機関と共同で実施し、救済した資料の一部を山形県内に運び込みました。さらに、ボランティアを募って水損資料をきれいにするクリーニング活動を県内各地で展開しています。そのなかで私は、山形大学を会場とするクリーニング活動の学生代表として、ボランティアを募り、実際にクリーニング活動に取り組んでいます。

主な作業は、資料について泥汚れを絵筆や竹串で落とす単純なものなので、特別な技能は不要です。また、活動を始めた当初、参加者はまばらでした。しかし、たくさんの人々の協力や広報宣伝のおかげで、活動の輪は人文科学部生のみならず、1年生や教職員、一般の方々へと広がっています。

ひとつでも多くの文化遺産を未来へ——これからも、私たちは活動を続けてゆきます。



人間文化学科3年 手塚那津美

山形大学での東日本大震災被災資料のクリーニング活動は、2011年の7月末頃から、一般の方も交えて、毎週月曜日に定期的に活動し、宮城県と岩手県の被災資料のクリーニングを行なってきました。

被災資料のクリーニングは、ハケ、絵筆、竹串などを使用して、資料に付着している土埃や泥、ごみなどを、一頁ごとに取り除き、カビがあった場合はエタノールで消毒を行なうといった地道で根気のいる作業です。一見、地味で目立たない活動のように感じられるかもしれません、が、被災地の貴重な資料を保全し未来に遺していくこの活動は、被災地でのボランティアと同じように重要な意味を持つものだと思います。私にとって、この活動は身近な場所でできるボランティアでも、被

災地の役に立てるということを実感する良い機会となりました。

山形大学での被災資料のクリーニング活動は、現在も月曜日の夕方に継続して行なっています。まだ、クリーニングを必要とする資料も多く残っています。他の参加者の方と話をしながら楽しく気軽にできる作業なので、興味を持って頂けた方はぜひ参加してみてください。



学問のススメ～人文学の多様なかたち～

人文学部にはたくさんの講義があります。興味のある学問を習得することによりあなたの道は拓けます。

◇授業紹介

★★★5つの切り口から欧米文化を探る

「欧米文化概論」の一番の特色は、異なった国（英・米・独・仏・露）の文学と文化を専門とする5人の教員が同一のテーマで講義を行うことです。テーマは教員の話し合いで決めており、平成24年度のテーマは「移動と静止」となりました。

以下は各教員（敬称略・担当順）の講義内容です。

①(佐藤清人：英) 英国小説に登場する二人の女主人公、エマとジェイン・エア。エマが一つの土地に留まる一方、ジェインは遍歴を重ねます。こうした違いが作品の時代や社会とどう関わっているのか考察します。

②(中村唯史：露) ロシア東欧地域では古来、多くの集団が行き來してきました。東欧ユダヤ人の文学、ロシア・ソ連という帝国内を中心から周縁に移動した人たちの物語、亡命を強いられた人々の時空間認識の問題などを考えます。

③(阿部宏慈：仏) 19世紀末、フランスやイタリアでは、色々な場所を旅する子どもたちを主人公にした物語が流行しました。『母をたずねて三千里』や『二人の子供のフランス一周旅行』を題材に、子供と旅のイメージの源泉を探ります。

④(渡辺将尚：独) トマス・マンの作品『魔の山』の主人公ハンスは、

—人間文化学科前期「欧米文化概論」佐藤 清人

3週間の予定でアルプス山脈を訪れます。結局は7年もの歳月をそこで過ごすことになります。アルプスへの「移動」と「静止」の意味を考えます。

⑤(藤澤秀光：米) 合衆国は「新しいエデン」であり、その住人は「創世記」のアダムとは異なる「新しいアダム」です。原罪を持たず、過去の伝統としてのヨーロッパ文化を否定したこの青年の定型について考えます。

さて、この授業のもうひとつの特色は、授業の最終回に5人の教員全員が集い、受講生からの意見や質問を足がかりに、討論を行うことです。議論が対立することもあるれば、全くくまなく紛糾するなど、他の授業では見られない教員間のやりとりが好評を得ています。



◇研究紹介

★★★マーケティング研究室 —マーケティング・経営戦略論およびベンチャービジネス論 伊藤 嘉浩

—伊藤先生の研究内容を教えてください

伊藤：私の専門はマーケティングを中心に、さらに経営戦略論やベンチャービジネス論などです。マーケティングでは、新商品の企画や開発の方法、儲かる仕組みの分析、サービスやブランドのマネジメント、広告宣伝などについて扱います。経営戦略論では、経営戦略や事業戦略、さらには競争戦略などの分析を行います。ベンチャービジネス論では独立したベンチャー企業の経営や企業内ベンチャーのマネジメントなどを研究します。大学発ベンチャーなども対象としています。

—この研究に興味を持ったきっかけは何でしょうか？

伊藤：私は長年キヤノンでマーケティングや新規事業開発の業務を行つ



ていました。その時にどうすれば仕事がよりうまくいかかと考えて、いろいろな関連する研究を調べていくうちに、本格的に研究を行うことに興味を持ちました。

—最後に、伊藤先生の授業内容を教えてください。

伊藤：現在は大きな研究テーマで2つの研究を行っています。

1つは企業内における新規事業開発のマネジメントに関する研究です。これは企業がどうすれば上手に新規事業開発を行うことが出来るかについて、経営戦略論や経営組織論、マーケティングなどさまざまな視点から調査分析するものです。これまでソニーやキヤノンなどの事例を多数調査分析しています。もう1つは企業の経営戦略に関する研究です。これはすぐれた経営戦略やビジネスモデルを実行している企業を調査分析するものです。最近ではパナソニックの企業再生時の経営戦略の事例を調査分析しました。また、一方で失敗した経営の調査分析も行っています。

平成23年度 卒業生進路状況

平成24年3月9日現在

学科名	卒業予定者数	進学予定者数	その他	就職希望者数(A)	就職内定者内訳				就職率B/A
					企業	公務員	教員	計(B)	
人間文化学科	男	35	4	6	25	12	3	1	16 64.0%
	女	75	5	3	67	42	7	0	49 73.1%
	小計	110	9	9	92	54	10	1	65 70.7%
法経政策学科	男	128	4	17	107	57	38	0	95 88.8%
	女	83	2	7	74	35	27	0	62 83.8%
	小計	211	6	24	181	92	65	0	157 86.7%
合 計	男	163	8	23	132	69	41	1	111 84.1%
	女	158	7	10	141	77	34	0	111 78.7%
	小計	321	15	33	273	146	75	1	222 81.3%

平成23年度卒業生就職・進学一覧

業種／就職先	人間文化学科		法経政策学科	
	男	女	男	女
建設業	1	2	3	1
和泉建業				1
祥建設		1		
積水ハウス			1	
セキスイファミエス東北		1		
高砂熱学工業			1	
タクミホーム	1			
ユアテック			1	
製造業	1	2	6	4
山形食品			1	
ヨコオデイリーフーズ				1
プリントパック				1
ツムラ		1		
日新製薬				1
Meiji Seika ファルマ				1
泉州鋼管			1	
三栄精機工業	1			
二クニ			1	
ミクロン精密		1		
三菱重工業			1	
NECインフロンティア			1	
メルテック			1	
電気・瓦斯・熱供給・水道業	0	0	0	1
北陸瓦斯				1
情報通信業	0	4	2	2
NHK		1		
NTT東日本				1
NDソフトウェア		1		
ステップ				1
東北インフォメーション・システムズ		1		
東北電子計算センター			1	
富士通マークティング			1	
YCCC情報システム		1		
運輸業、郵便業	0	1	3	1
越後交通		1		
サカイ引越センター			1	
全日本空輸				1
第一貨物			2	
卸売業、小売業	3	11	9	3
アイリスオーヤマ		1		

業種／就職先	人間文化学科		法経政策学科	
	男	女	男	女
イトキン		1		
OSGコーポレーション				1
カメリ		1		1
ケオ産業				1
nemours				1
山形パナソニック				1
ラプラス				1
YKKファスニングプロダクト販売				1
渡辺包装				1
エヌ・ケー・フローリスト	1			
オールフロンティア		1		
小岩井ミルヒ				1
デンコードー		1		1
東和工業		1		
ネットヨタ山形				1
フードセンターたかき		1		
ホーマック		1		
メガネットツプ	1			
ヤマザワ		1		
ヤマト屋書店		1		
横浜ファー・マシ		1		
ヨドバシカメラ		1		
LIXILビバ				1
金融業、保険業	2	8	17	15
足利銀行				1
岩手銀行				1
北日本銀行				1
きらやか銀行	1	1	2	1
群馬県信用保証協会		1		
七十七銀行		1	4	
商工組合中央金庫				1
莊内銀行		1	2	
常陽銀行				1
仙台銀行			1	1
大東銀	1			
東京中小企業投資育成			1	
東邦銀行				1
東北銀行		1		
栃木県信用保証協会			1	
利根郡信用金庫		1		

業種／就職先	人間文化学科		法経政策学科	
	男	女	男	女
山形銀行			2	1
山形證券				1
山形中央信用組合				1
ゆうちょ銀行			1	
りそな銀行				1
第一生命保険		1		
東京海上日動火災保険				2
日新火災海上保険			1	
日本生命				1
三井住友海上火災保険				2
山形県民共済生活協同組合		1		
不動産業、物品賃貸業	2	0	3	0
セレサ	1			
ボラスグループ			1	
ヤマコー	1			
力ナモト			1	
帝人在宅医療			1	
学術研究、専門・技術サービス業	0	1	1	0
カメラのキタムラ		1		
田代税理士事務所			1	
宿泊業、飲食サービス業	1	2	0	1
カール		2		
紀州鉄道ホテル藏王				1
三光マークティングフーズ	1			
生活関連サービス業、娯楽業	0	2	0	2
エイチ・アイ・エス		1		
近畿日本ツーリスト東北				1
ナウエル				1
名鉄観光サービス		1		
教育、学習支援業	1	3	4	1
東北大學		1	1	
山形大學	1	2	2	1
中原ダンスアカデミー			1	
医療、福祉サービス業	1	2	5	2
公立岩瀬病院			1	
独立行政法人日本海総合病院		1		
日本赤十字社			1	
社会医療法人博愛会菅間記念病院				1
山形済生病院		1		
独立行政法人労働者健康福祉機構			1	
茨城県国民健康保険団体連合会			1	
日本年金機構				1
はれこーセン	1			
山形県建設国民健康保険組合			1	
複合サービス業	0	3	1	0
JASAがえ西村山		1		
新潟県厚生農業協同組合連合会		1		
みやぎ生活協同組合		1		
山形県農業信用基金協会			1	
サービス業(他に分類されないもの)	0	1	3	2
アイ・タツクル			1	
アクセルマーケット		1		
インテリジエンス				1
総合警備保障			1	
東洋ワークセキュリティ			1	
bangon			1	

業種／就職先・進学先	人間文化学科		法経政策学科	
	男	女	男	女
公務員	3	7	38	27
青森地方検察庁			1	
関東信越国税局				1
裁判所事務官II種			1	1
仙台国税局			3	
東北財務局			1	1
法務教官	1			
山形地方検察庁			1	
労働局				1
秋田県庁			1	
茨城县庁	1			
大船渡市役所				1
上山市役所				2
気仙沼市役所				1
塩竈市役所			1	
色麻町役場			1	
白河市役所				1
新庄市役所			1	
仙台市役所				2
仙台市職員(消防士)			1	
玉川村役場			1	
鶴岡市役所				1
天童市役所				1
長井市役所		1		
長野県庁				1
中山町役場				1
楢葉町役場				1
新潟県庁			1	
新潟市役所				1
白山市役所				1
東根市役所		1		
福島県庁			2	
宮城県警			2	
宮城県職員(学校事務)	1	1	2	
宮城県庁	1	3	2	
最上広域市町村圏事務組合			1	
盛岡市役所			1	
矢板市役所			1	
山形県警	1		4	2
山形県庁			3	
山形市役所		1	2	2
山辺町役場	1			
由利本荘市役所			1	
吉田町役場			1	
米沢市役所			2	1
亘理町役場		1		
教員	1	0	0	0
山形県教員(高校・社会)	1			
大学院／進学	4	5	4	2
山形大学大学院社会文化システム研究科	1	4	2	1
山形大学教職大学院	1			
東北大学大学院文化研究科	1			
東北大学法科大学院			1	1
筑波大学大学院人間総合科学研究科	1			
筑波大学大学院システム情報工学研究科			1	
一橋大学大学院言語社会研究科		1		

これらの数値は3月9日現在のものであり、最終発表は5月の山形大学のホームページをご覧ください。
山形大学ホームページ⇒就職情報⇒就職状況⇒人文学部 <http://www.yamagata-u.ac.jp/index-j.html>

学びの広場

人文ニュース

人文学部で外国人留学生懇談会を開催

>平成23年12月16日(金)<

本懇談会は、人文学部所属の外国人留学生の皆さんと、快適な学園生活を送るために、毎年、人文学部独自で開催しているもので、今回は、外国人留学生及び教職員合わせて66名の参加がありました。留学生の皆さんには4つのグループに分かれ、それぞれにチューターと指導教員も加わり、修学上の問題や日常生活で感じていることについて話し合いました。



懇談会でグループ討議の様子

講演会「美術館の仕事～小規模美術館の現場から～」の開催

>平成24年1月23日(月)<

今回の講演は、岩手町立石神の丘美術館主任学芸員の斎藤桃子さんを講師に迎え、学生及び教職員を含め30余名の参加の下「美術館の仕事～小規模美術館の現場から～」と題して開催しました。講演では、山形大学人文学部に学んで学芸員となった動機や学芸員2名という小規模美術館での日々の活動などについて、興味深いお話をたくさんあり、参加者は皆熱心に聞き入っていました。



斎藤桃子学芸員の講演の様子

パワー・ハラスメントについての研修会

>平成23年12月14日(水)<

今回の研修会は、第一部「パワハラがなくなる話し方・接し方」、第二部「どこからがパワハラか」と題したビデオ上映による研修会で、教職員40余名の参加の下行われました。企画を担当した学部キャンパス・ハラスメント防止対策委員から主旨説明の後ビデオ上映があり、終了後は、大学におけるパワー・ハラスメントの実態や問題点などについて、活発な意見交換が行われました。



ビデオ上映会の様子

近世東アジア比較都城史研究会3年間の活動

「近世東アジア比較都城史研究会」は、平成21年度、科学研究費の基盤研究(B)(研究代表、新宮)が採択されたのを機会に発足した新しい研究会です。本学の中村篤志准教授のほか8名の科研メンバーを中心にして組織。中国・日本・朝鮮・モンゴルなどをフィールドとする大学や研究機関の研究者からなり、文献史料と考古資料の双方から研究を進めています。

この3年間に、都城空間、宮城、複都制のテーマで4回の研究会を開催(1回は山口大学で開催)。毎年夏に実施している海外調査では、中国の開封・鳳陽・南京、モンゴル国のカラコルム、河北・内蒙の都城遺址を踏査しました。

「都城」とは、たんなる都市とは同義ではありません。本来、城壁で囲まれた都市のことです。都城という言葉から、すぐに

唐の長安を思い浮かべた方は、かなりの古代史通です。あるいは、平城遷都1300年祭で大活躍した、あのかわいいキャラクター「せんとくん」を思い出した人もいるかも知れません。

でも都城は、中国の長安城、日本の平城京や平安京にとどまりません。北京も南京もすべて都城で、中国都市の多くは前近代の都城から発展しています。東アジア、さらにはユーラシアの中で見渡しても、近代以前の都市は城壁で囲まれることが一般的で、立派な城門を備えた都城こそが普遍的でした。逆に、島国の日本や北アメリカの都市は例外です。じつは、現在ツケを負わされている高度経済成長期の無秩序な都市空間の拡大は、このあたりに歴史的淵源がありそうです。

それはさておき、古代・中世以降、近世

段階においても東アジア各地で存在し続けた都城を対象にした比較史的考察は、都市の歴史的本質にとどまらず諸地域の文化的個性を浮かび上がらせてくれます。

この3月をもって科研の研究期間が終了しますので、今後はこれまでの研究報告と海外調査の成果をまとめて公刊し、研究会の継続につなげたいと計画しています。

(人間文化学科教授 新宮 学)



元上都遺跡調査のメンバー（2011年9月）

表紙のQuestionの答え：開封

人文ニュース 第44巻1号

○発行／山形大学人文学部 ○編集／人文学部広報委員会 渡辺将尚 田北俊昭 ○発行日／平成24年4月5日
〒990-8560 山形市小白川町1-4-12 電話023-628-4203(人文学部事務室)
<http://www-h.yamagata-u.ac.jp/agora/index.htm> E-mail : jisoumu@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

※本学部の最新情報については、ホームページをご覧ください。山形大学人文学部 <http://www-h.yamagata-u.ac.jp>
※昨年度で退職・転出された教職員、今年度の新任教職員のご挨拶は順次ホームページに掲載する予定です。

リサイクル適性(A)
この印刷物は、印刷用紙へ
リサイクルできます。